

おいしい図書館

No. 16

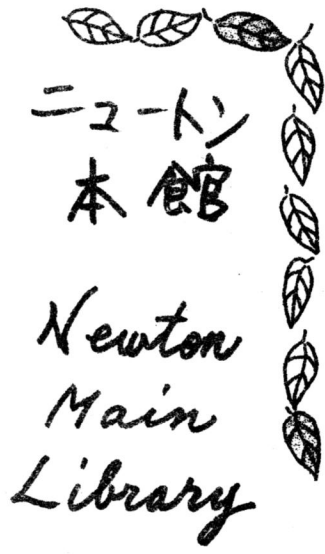
アメリカ東部の

図書館を

利用して

夫の仕事の関係で昨年四月より今年三月迄の一年間を、家族と共にボストンの西の郊外の町ニュートンで暮らしました。ニュートンは人口約八千余りの別名“Garden City”と呼ばれる緑の多い美しい住宅地で、ユダヤ系の人々が多く住み、精神科医が一番多いと聞きました。ボストンマリンで有名な、心臓破りの女もここにあり、小沢征爾氏も住んでいます。ここでの暮らしか

らみた、私見によるボストン近郊の図書館のことをお伝えしたいと思います。



家から歩いて六七分のところにあります。広い駐車場と豊かな緑に囲まれて、地域の情報センターとして市民がよく利用しているようでした。へ適当りのべ一万三千人。ボランティアも様々な場面を活動していました。本の貸出・返却、書架への配本、郵便物の発送、売店(カード)や図書用品の

販売)業務など、あらゆるところで活動してました。

出入口の近くには、色々な団体のテラシなどが置かれた机があり、ニュートンにある二つの公立高校の学校新聞や図書館案内図書への寄付を募るお知らせもありました。高額寄付者の名前が刻印され張り出されています。また雑誌類の交換箱(不用品となった雑誌を入れ、逆に読みたいものを自由にビッグアップしてよい)が設置されており、私生活和服姿の雅子さんが表紙の雑誌を頂戴いたしました。一方の壁には、図書館に対するQ&Aの用紙を貼ったメモ板や、個人の利益を伴わないお知らせのコーナーがあつて、いつも賑やかにメモがとめてありました。中央のホールの一隅では、時々雑誌

題の本のコーナーがあつて、例えば8年のノーベル文学賞を受けた時には、トニ・モリスンの著作が並びました。税金の申告時には各種の用紙の山が積まれていたのを覚えていきます。

館内には小さな講堂もあり、月二回水曜日の夜には映画会へ雨に歌えなど古いのを上映していることが多かった。や、音楽会、キルト、絵や写真の展覧会がよく開かれていました。

自分で調査

しやすい図書館

一番印象に残ったのは、自分で調査できるよう配慮されていることでした。図書館は三階建

でしたが、中央が

吹き抜けになっ

ていてとても

明るく、その

中央に机(オー

ブン)が並べられ、

資料が広げられるようになって

いきます。傍には司書の大きな机

が二つあつて、いつでも質問で

きるようになっていきます。周囲

の壁面には二次資料が並び、

その間にコンピューターの端末がと

ころどころにあつて、脇にはメ

モ用紙と鉛筆が置かれていまし

た。外側の部屋も二次資料の書

棚がびっしりと並び、壁づたい

にはキャレルが並んでいました。

端末は館内のいたるところに置

かれ、いつでも自由に検索でき

るようになっていきます。使い方の説明会も毎月何回か、昼と夜



にひらかれていました。著者名、タイトル、分類コードから検索でき、フルレコード(ネットワーク)により、他の図書館の情報も入っている)まで出ます。コピー機も所々に設置され、一枚5セント(隣の町ブルックライソでは10セント)でした。

——フづく——

(文・古関とし子)



発行 「おーい 図書館」
連絡先 青木 和子

神戸市榎台八三〇、六〇
四七三(六七)五三八四